

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19520167

研究課題名（和文）日本における精神分析の紹介と影響

研究課題名（英文）Introduction and Influence of Psychoanalysis in Japan

研究代表者

曾根 博義 (SONE HIROYOSHI)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：90120493

研究成果の概要（和文）：メディアとしては雑誌『心理研究』『精神分析』『脳』『文芸レビュー』、人物としては大槻憲二、伊藤整らを中心に、日本における精神分析の紹介と影響の歴史をたどり、その一部を公表した。大槻憲二と『精神分析』戦前版については、他の研究者、出版社と協力して復刻版、総目次、解説にいたるまで、ほぼ理想的なかたちで成果を公表することができた。しかし『心理研究』『脳』についてはデータベースはほぼ完成したが、公表には至っていない。今後の機会を待ちたい。

研究成果の概要（英文）：Centering on the major magazines such as “Shinri-kenkyuu” “Seishin-bunseki” “Nou” “Bungei Review”, and also on the important characters such as Otsuki Kenji and Ito Sei, the main stream of introduction and influence of psychoanalysis in Japan has roughly been traced out. Part of its result has been published. The most successful case of publication was that of “Seishin-bunseki”. Databases of “Shinri-kenkyuu” and “Nou” have been completed, but unpublished.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近代文学、精神分析、フロイト、大槻憲二、伊藤整、小林多喜二

## 1. 研究開始当初の背景

日本におけるフロイトあるいは精神分析の受容、紹介、普及、影響の歴史は、これまでほとんど研究されてこなかった。わずかに精神分析学の概説や心理学史の分野で、わが国におけるその受容、抵抗、批判、排斥の経

過が紹介され、それが擬似科学として精神医学者からも心理学者からも継子扱いされてきた経緯が語られるにとどまっていた。しかし明治末年から多くの分野の、多くの人々によって、曲りなりにも紹介、移入された精神分析は、実際には、さまざまな誤解や曲解を

伴ないながらも、精神医学、心理学以外の他の学問、芸術、文化、思想の諸領域に急速に波及し、大きな刺激や影響をあたえてきた。にもかかわらず、それについての研究は等閑視されてきたのである。医学や自然科学の分野では、日進月歩の新しい技術や方法を発見、開発することが研究の目的であり、過去に遡ってそれらの発見や開発の歴史を研究することは、回顧的意味はともかく、学問的、実践的意義を持つものではないとされてきたからであろう。科学史という自然科学一般の方法の史的変遷を研究する学問分野は存在するが、医学や自然科学の個別の分野においては、時間はいわば現在から未来に向かって一方向的にしか流れていない。つまりそこには過去・現在・未来という人間的、歴史的時間は流れていないといってもよい。しかしいうまでもなく科学も人間や歴史を離れて存在するものではなく、その時代の社会や文化との歴史的関係の中で機能し、しばしば他の学問、芸術、思想に大きな影響をあたえる。その研究こそ自然科学とは異なる人文科学の一つの大きな課題でなければならない。文学を中心とする精神分析に関するわが国の先行研究にはわずかに次のようなものしか存在しなかった。

(1) 曾根博義を中心とする伊藤整初期作品におけるフロイト精神分析の影響の研究。曾根博義『伝記 伊藤整』(1977)、同「フロイトの紹介と影響」(1979)、同『感情細胞の断面』とその周辺』(1980) ほか。

(2) 曾根博義を中心とする大正期の「無意識」に関する研究、及び中村古峽主幹の雑誌『変態心理』の紹介と研究。曾根博義「フロイト受容の地層」(1986)、曾根博義他編『変態心理』復刻版(1998-9)、曾根博義他編著『『変態心理』と中村古峽』(2001) ほか。

(3) 佐藤達哉ら心理学史研究者による、明治以降の日本の心理学における精神分析の紹介と影響の史的概説。

## 2. 研究の目的

文学を中心としながら、それらの先行研究の範囲を次の方向に拡大するとともに、調査、研究の密度を増大すること。研究代表者の曾根博義においては、伊藤整から出発したこれまでの自分の日本近代文学研究を、この面を中心にまとめあげたいという気持も働いていたが、さしあたり次の諸点に留意しようとした。

(1) 雑誌については『変態心理』に先行する『心理研究』にまで調査の範囲を広げると同時に、昭和になって出た『精神分析』『脳』についても調査すること。それらの資料はすべて稀覯雑誌なので、それらの揃いを探索し、入手、閲覧ないし複写することから始めなければならない。

(2) 人物や作品については、『精神分析』を主宰した大槻憲二、小説への導入を企図した伊藤整とその作品、彼らと同時代の近代文学者や作品について広く研究すること。

(3) すなわち直接精神分析にはかかわらなくても、伊藤整のライバルであった小林多喜二、戦前の同時代者であった太宰治、戦後の同時代文学者であった井上靖、その他の近現代文学者についても、臨機応変に研究を進めること。

## 3. 研究の方法

(1) 雑誌については、総目次のデータベース化を中心とし、執筆者、テーマ、内容等が容易に検索できるようにすること。これについては専用のパソコンを購入し、ベテランのパソコン入力者の協力を得ること。

(2) 人物及び作品については、その人物の生涯と作品全体の中で精神分析並びにその影響を受けた作品や研究がどんな位置にあり、いかなる役割を果たしているかを伝記と作品分析の両面から明らかにすること。

(3) 精神分析そのものは政治的なイデオロギーではないが、かえってそれだけに、マルクス主義、ファシズムなどの政治的イデオロギーや近代宗教と結びついたり、利用されたりしやすい。そのような社会思想的観点からの考察も重要であることを忘れないようにすること。現に昭和における代表的な精神分析学者になった大槻憲二はマルクス主義者たちの批判を受けてフロイトに走ったところがあり、小樽高商で小林多喜二の1年後輩だった伊藤整はプロレタリア文学者として頭角を現わした多喜二のライバルたらんとしてフロイトによる「新心理文学」を唱え、「工場細胞」に対して「感情細胞」に拠ろうとしたところがある。

## 4. 研究成果

(1) 雑誌『精神分析』の研究。心理学史専攻のサトウタツヤ(佐藤達哉)氏、不二出版などと協力し、大槻憲二主宰の雑誌『精神分析』戦前編(1933-41)の復刻版の監修、総目次の作成、大槻憲二と『変態心理』に関する解説の執筆を行い、不二出版から刊行した(次項5参照)。

(2) 同誌の戦後の未復刻分(1952-77)については、総目次中心のデータベースを作成(未公表)。

(3) 大槻憲二、伊藤整、アナキズム、新宗教、その他の近代日本の思想と文学の根底を流れる人間観、自然観、世界観について考察した(次項5の論文参照)。

(4) 精神分析受容の点で『変態心理』と並んで先駆的な役割を果たした上野陽一主宰の雑誌『心理研究』(1912-25、心理学研究会編輯、通巻165冊)について総目次中心のデ

ータベースを作成（未公表）。同誌の主要執筆者は上野陽一、大槻快尊、小熊虎之助、城戸幡太郎、木村久一、久保良英、菅原教造、寺田精一、中村古峽、野上俊夫、福来友吉、松永延造、松本亦太郎、村上辰五郎、元良勇次郎、師岡存等で、これらの執筆者別にも検索できるようにした。

（5）昭和改元と同時に主として医学者を対象に創刊されて、文学者中心の『精神分析』と並び、しばしば対立した雑誌『脳』（1927-44、40より『精神と科学』と改題、小峯茂之主宰、精神衛生学会発行）の全冊を揃え、総目次中心のデータベースを作成（未公表）。

主要執筆者：金子準二、神近市子、木村廉吉、小峯茂之、斎藤玉男、斎藤茂吉、式場隆三郎、杉田直樹、高橋新吉、林麟、松井好夫、丸井清泰、三宅鈺一、森田正馬、吉益脩夫等。

（6）初期伊藤整関係の雑誌『文芸レビュー』と「新心理文学」に関する詳細研究（次項5参照）。

（7）G・グリーン原作・伊藤整訳『事件の核心』、伊藤整最後の長篇『変容』、その他伊藤整文学全体におけるフロイト及び精神分析の影響の検証と再確認（次項5参照）。

（8）その他、間接的に精神分析にかかわる日本近現代文学の諸作家、諸作品、諸問題に関する研究（次項5参照）。

（9）上述のように、雑誌『精神分析』の戦後分、『心理研究』『脳』全冊については、研究補助者の協力により、それぞれのデータベースを完成しているが、主として経済的理由から、公表することができないままになっている。将来、公表の機会に恵まれることを期待している。以下の発表論文等にこれらを含めることができなかったのはまことに残念である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計25件）

- ① 曾根博義、井上靖と戦争、語文、査読有、136、2010、126-135
- ② 曾根博義、川端康成『純粹の声』、日本古書通信、査読無、968、2010、19
- ③ 曾根博義、雑誌『不確定性ペーパー』、日本古書通信、査読無、967、2010、17
- ④ 曾根博義、百田楓花『愛の鳥』、日本古書通信、査読無、966、2010、9
- ⑤ 曾根博義、井上靖「後送途上」解説、伝書鳩、査読無、10、2009、34-35
- ⑥ 曾根博義、「井上靖 中国行軍日記」解説、新潮、査読無、106-12、2009、231-256
- ⑦ 曾根博義、太宰治的一幕物、悲劇喜劇、査読無、709、2009、8-10
- ⑧ 曾根博義、1950年代の伊藤整、日本比較

文学会東京支部研究報告、査読無、6、2009、67-71

- ⑨ 曾根博義、舞台と文学のモダニズム—「文芸レビュー」と新心理文学—、Net Pinus（雄松堂出版インターネット雑誌）、査読無、75、2009
  - ⑩ 曾根博義、尾西康充著『田村泰次郎の戦争文学』、日本近代文学、査読有、80、2009、257-260
  - ⑪ 曾根博義、小林多喜二と小樽高商、彷彿月刊、査読無、25-3、2009、6-9
  - ⑫ 曾根博義、伊藤整と小林多喜二、芸術至上主義文芸、査読有、34、2008、44
  - ⑬ 曾根博義、大槻憲二と伊藤整とアナキズム、トスキナア、査読無、8、2008、3-9
  - ⑭ 曾根博義、雑誌『小説倶楽部』と小林多喜二・補記、日本古書通信、査読無、950、2008、4-6
  - ⑮ 曾根博義、日本近代文学における山本有三の位置、国文学 解釈と鑑賞、査読無、73-6、2008、18-24
  - ⑯ 曾根博義、小林多喜二初期の小説「老いた体操教師」をめぐって、市立小樽文学館報、査読無、31、2008、18-24
  - ⑰ 曾根博義、文芸評論と大衆、文学 隔月刊、査読無、9-2、2008、112-124
  - ⑱ 曾根博義、「生物祭」と「文学祭」、虹、56、査読無、2008、23-28
  - ⑲ 曾根博義、小林多喜二「老いた体操教師」の背景とモデル、語文、査読有、129、2007、52-64
  - ⑳ 曾根博義、芥川龍之介とジョイス、「芥川龍之介全集[第2次]」月報、査読無、11、2007、5-8
  - ㉑ 曾根博義、出発期の金星堂、日本近代文学館年誌 資料探索、査読無、3、2007、72-91
  - ㉒ 曾根博義、谷崎潤一郎と伊藤整、江古田文学、査読無、65、2007、80-89
  - ㉓ 曾根博義、井上靖と戦後のメディアと文壇の政治力学、高原文庫、査読無、22、2007、46-53
  - ㉔ 曾根博義、投稿少年 小林多喜二、すばる、査読無、29-7、2007、184-191
  - ㉕ 曾根博義、小林多喜二「老いた体操教師」解説、民主文学、査読無、501、2007、59-63
- 〔学会発表〕（計5件）
- ① 曾根博義、大槻憲二と雑誌『精神分析』、メタモ研究会第31回報告、2008.12.25、於・日本大学文理学部
  - ② 曾根博義、フロイト受容史年表、同会に

- て配布
- ③ 曾根博義、フロイト受容研究史年表、同会にて配布
  - ④ 曾根博義、大槻憲二著作年表、同会にて配布
  - ⑤ 曾根博義、1950年代の伊藤整—『事件の核心』との出会いと「愛」の思想—、日本比較文学会第46回東京大会、2008.10.12、於・清泉女子大学

[図書] (計11件)

- ① 井上靖著、新編 歴史小説の周囲、講談社文芸文庫、編集・解説・年譜・著書目録(曾根博義)、2009、245-279
- ② 吉村昭著、回り灯籠、筑摩書房ちくま文庫、解説(曾根博義)、2009、226-231
- ③ 中島国彦・池内輝雄・曾根博義・宗像和重(編)、文藝時評大系 昭和篇Ⅲ 全12巻、ゆまに書房、2009
- ④ 太宰治著、地図 初期作品集、新潮社新潮文庫、編集・解説(曾根博義)、2009、369-378
- ⑤ 文藝時評大系 昭和篇Ⅱ 別巻、ゆまに書房、編集・解説(曾根博義)、2009、5-20
- ⑥ 中島国彦・池内輝雄・曾根博義・宗像和重(編)、文藝時評大系 昭和篇Ⅱ 全13巻、ゆまに書房、2008
- ⑦ 尾形明子・長谷川啓編、老いの愉楽——「老人文学」の魅力、東京堂出版、伊藤整 老年の性と愛のユートピア——『変容』の世界(曾根博義)、2008、230-248
- ⑧ サトウタツヤ・曾根博義監修、『精神分析』戦前版 復刻版、不二出版、2008-9、総頁6,662
- ⑨ サトウタツヤ・曾根博義編集・解説、『精神分析』戦前版 解説・総目次・索引、不二出版、2008、108(索引13)
- ⑩ 中島国彦・池内輝雄・曾根博義・宗像和重(編)、文藝時評大系 昭和篇Ⅰ 全19巻・別巻1、ゆまに書房、2007
- ⑪ 曾根博義(編著)、日本近代文学館資料叢書[第Ⅱ期] 文学者の手紙4 昭和の文学者たち、博文館新社、2007、315

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曾根 博義 (SONE HIROYOSHI)  
日本大学・文理学部・教授  
研究者番号：90120493

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし